

活動2 6の段の九九のつくり方を自分なりに考える。



戸惑っている児童にはヒント（アレイ図）が配られました。

まずは、 6×1 から 6×4 までの答えを自分で考えました。多くの児童は「6個入りの箱（6の段）なので6ずつ増えることを手がかりに答えを求めていました。中には、「 2×4 、 3×4 、 4×4 、 5×4 」と、これまでに習った九九を活用している児童も見られました。

活動3 お互いの考えを出し合って6の段をつくり、学習のまとめをする。



自分で解決できた児童は自信満々に挙手して発表しています。

自分と違う考え方で説いた児童の発表に真剣に聞き入る姿も見られました。

児童は、6の段の九九を作り上げ、乗数が1増えると答えが6増えることや4の段の九九との違いに触れたりしながら、自分の考えを説明していました。

その後、学習プリントを使って、授業の内容が正しく身についているか確かめました。

九九をただ覚えるのではなく、自分で考えて九九を構成していく学習はこの後も続きます。授業の後には九九を唱える児童の姿が見られました。



